International Exchange project

パタナシン芸術大学構内のワンナーギャラリー正面

パタナシン芸術大学との国際交流締結とその交流状況

富山大学芸術文化学部教授　後藤　敏伸

平成24年１月、予て交流のあったタイ王国バンコック中心部に位置する王立パタナシン芸術大学との学部間交流締結のため、前学部長秦正徳教授、前支援グループ長清水良太郎氏、前学部国際交流委員長の私の３人で、協定締結の為に渡航した。パタナシン芸術大学は、バンコック中央に位置し、王宮に隣接した、環境にも恵まれた大学である。構内には寺院もあり、伝統舞踊、伝統音楽の学部を併設した芸術総合大学と言える。同地区からは離れているが、その他に、美術学部、芸術系教員養成学部（高校も併設）など、タイ王国の大学再編に伴い幾つかの教育組織を統括している。

１月19日（木）現地時刻13時30分、パタナシン芸術大学本部棟にて学術交流協定が締結された。本学部からは、前述の３名の他、通訳を含め４名に対しパタナシン芸術大学側からはガモン・ストー学長を初め、副学長３名、学長補佐２名、その他学部長、校長、副校長等７名、総勢12名の列席の中で執り行われた。始めにこれまでの交流の経緯説明があり、ガモン・ストー学長、秦前学部長の挨拶、続いて締結調印となり、その後両校の映像を使用した紹介となり、記念品の交換後、記念撮影で終了した。

協定の内容は、両機関が相互に対等な立場で、

（１）学生と教員の交流

（２）学術資料、刊行物及び情報の交換

（３）双方が同意するその他の項目

についての実施と、その発展に協力することや、実施する為に必要となる事項は、その都度両機関が協議し定めること、更に実施にあたっての財政上の義務を双方共に負わないこと、協定書の有効期間が５年であり、その後は一方が協定終了の意思を通告しない限り自動更新されること、協定書は、両機関の合意によりいつでも修正できること等である。

以上の交流協定に基づき、平成24年８月には、早速研究者交流の名目によりパタナシン芸術大学からの４名の絵画系教員が、日本画技術の修得の為に研修来日の運びとなった。日程は一週間程であったが、熱心に修得に励み日本画への興味を深くしたようだ。研修以外にも県内の美術館視察等で、日本に対する理解を深め、友好的な印象を持ったとのことである。

更には、平成25年３月25日から４月26日の期間で、第一回の両大学間交流美術展をパタナシン芸術大学構内ワンナーギャラリーにて開催した。本学部からの出品者数は教員、院生を合わせ25名、パタナシン芸術大学側の教員出品数は47名に及び盛大な展覧会となった。開催にあたっては、タイ王国文化大臣ソンタヤ氏の列席のもと、パタナシン芸術大学新学長ファチャムルーン氏以下教員及び学生、一般市民等多数の参加者と、秦前学部長並びに、展示作業の為に本学部から３名、及び数名の日本人が参集した。文化大臣、学長、本学部長の開会挨拶に続き、本学部側の作品解説を文化大臣他来賓の方々

学問の神様ガネーシャの像

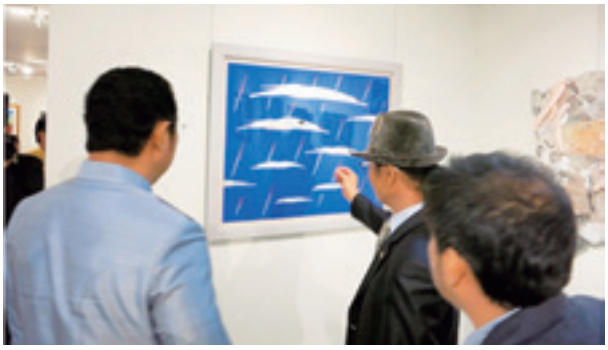
パタナシン芸術大学正面ゲート

研究者交流で本学部へ来学したパタナシン芸術大学教員

実際の日本画研修風景

パタナシン芸術大学構内ギャラリーの展示風景

交流美術展オープニング（タイ文化大臣列席）



オープニングにて本学側の作品紹介

に行い、その後、屋外での歓迎式典、及び交換会が行われ、音楽学部の学生による伝統音楽演奏や、舞踊学部学生による伝統舞踊が披露された。タイのTV局や新聞社の取材もありパタナシン芸術大学の対応努力に感心させられた。

前日の新学長表敬の折には、両校の更なる交流促進の為の話し合いがなされ、実際に日本の学生が留学をした場合のパタナシン芸術大学の具体的な対応や、研究者交流の発展的可能性、及び大学院生を含めた交流協定の見直し等にも議論が及び有意義な時間を持てた。本学部に対するパタナシン芸術大学側の期待感や、誠意を確信したと言える。

今年度は、第２回目の両大学間交流美術展が既に12月に予定されており、両大学の交流が更に発展して行くものと思われる。また、本学部院生の留学希望者もあり、タイの美術工芸の歴史的解明や、研究の一助に寄与できるであろう。と、同時に両国の文化発展に弾みをつけたいものである。